

令和2年度 第1回 第7期武蔵野市廃棄物に関する市民会議要録

| | |
|--------|--|
| 【日 時】 | 令和2年8月6日(木) 午後6時00分～午後7時35分 |
| 【場 所】 | クリーンセンター2階 見学者ホール |
| 【出席委員】 | 山谷修作(委員長)、田口誠(副委員長)、阿由葉尚史、荻野芳明、 (敬称略) 加藤慎次郎、古林和佳子、島森和子、瀬口亮子、竹下登、中村充、 新垣俊彦、花俣延博 |
| 【事務局】 | ごみ総合対策課長、クリーンセンター担当課長 ほか |
| 【欠 席】 | 西上原節子、茂木勉 |
| 【傍 聴】 | なし |
| 【配付資料】 | |
| 資料1 | 第7期武蔵野市廃棄物に関する市民会議委員一覧 |
| 資料2 | 令和元年度一般廃棄物処理基本計画事業取組 |
| 資料3 | 収集頻度変更等の効果検証結果について |

1 開会

- 【事務局】開会前に、本日の資料を確認した。委員の出欠席について連絡する。会議は記録作成用に録音する。進行を委員長へお願いする。
- 【委員長】開会する。委嘱状を机上交付する。新任・前回欠席委員と事務局の自己紹介をお願いする。

2 議題

(1) 令和元年度の取組実施状況報告と令和2年度の取組予定について

- 【委員長】説明をお願いする。
- 【事務局】資料2についての説明。
- 【委員長】事務局の説明に質問はあるか。
特に無いようなので次の議題に入る。

(2) 収集頻度変更等の効果検証結果について

- 【委員長】説明をお願いする。
- 【事務局】資料3についての説明。
なお、効果検証結果について、委員の皆様からいただいたご意見を受け、事務局と委員長で作成する「考察」を加え、事業概要に掲載する予定である。
- 【委員長】事務局の説明に質問はあるか。
- 【委員】表2について、地区割変更等による平準化の台数削減は容器包装プラが大きいが、影響としては平準化の方が大きいのか。また、可燃ごみは平準化の効果があったのか。
- 【事務局】容器包装プラは、曜日ごとの稼働台数の差がこれまで最も大きかった。1

週間(5日間)で53台稼働していて、そのうち水曜日が22台、他の曜日は5～8台だった。週当たりの稼働台数がびん等に比べて多く、曜日間の稼働台数差も大きかったので、平準化による効果が大きかったと考えられる。びん、缶、ペットボトルについて、頻度変更と平準化によってどちらにどれだけ効果があったかを計るのは難しい。

可燃ごみについては、収集頻度を見直しておらず、地区割についても、曜日により東側地区と西側地区を交代で収集していることに変更はないため、今回の変更による影響は特にみられない。

【委員】 以前説明を受けたときに、平準化したいという点が大きかったと思う。容器包装プラの水曜日の収集業務が遅くまでかかっていたという話も聞いていたので、平準化されてよかったと思う。ペットボトルを店頭回収に出すなどの行動の変化により行政回収のごみ量が減少する期待をしていた。事業概要などにごみ量が掲載されるのか。

【委員長】 ステイホームにより容器包装プラが増えていると聞いているが、データの説明をしていただきたい。

【事務局】 事業概要で正式な数値はお示しできる。現段階で、びんは-5.9パーセント、缶は-8パーセント、ペットボトルは-4.7パーセント、容器包装プラは-0.6パーセントになっている。

【委員】 ペットボトルが思っていたほど減少していないのは残念である。缶が8パーセント減っているが、どこに流れているのか。不法投棄なのか、不燃ごみとして排出しているのか。

【事務局】 収集頻度の変更により、購入を控えるなど生活スタイルの変化をもたらしていることなどが一因として考えられる。令和元年度は減少をしているが、今年度は新型コロナウイルスの影響もあり資源物が増加している状況がある。

【委員】 平準化した後の数値としては、今回検証した年度がより正確であると思う。

【事務局】 容器包装プラ等については、2月までは減少しているが、新型コロナウイルスの影響で3月以降はペットボトルや容器包装プラが増加している。

【委員長】 缶について、スーパーの店頭回収をしているところがあるのか。

【委員】 市内スーパーやコンビニの店頭回収状況を調査したが、エコスタいらやなどが缶の店頭回収をしている。

【事務局】 平成30年度の集団回収について、スチール缶は横ばいでアルミ缶は増加しているので、集団回収へ缶の排出が流れた部分もあると思われる。

【委員長】 他にご意見、質問はあるか。

【委員】 市からの評価をお伝えする。CO2 排出の削減としての環境負荷の効果はあった。収集頻度の見直しにより、事業者の収集体制の効率化、適正化に更なる期待が持てる。収集に対する経費はコストにすぐに表れない。ただし事業者の人員や車両の確保を考えると、効果は中長期的に表れると思われる。事業を継続するための一つの手法であり見直しによる効果はあった。市の業務については、収集地区割の見直しにより、取り残しがあった場合に迅速な対応ができています。収集量の均等化を図ることによる走行距離や車両台数、事故リスクの削減が図られた。マイナス評価としては、回数減

により市民への利便性やサービスの低下があったと思う。しかし減量により生活スタイルの変化が見られ一石を投じたと感じている。

- 【委員長】缶がどこに流れたのかは難しい。
- 【委員】缶は家庭によって格差は出ると思う。嗜好の違いが出る。
- 【委員】市民に関心をもってもらえることが一番。ごみアプリを知りダウンロードをして使っているが、検索をすると収集曜日がわかる便利な機能がある。ごみに関心を持ってもらうために、ごみ量の月別排出比較などが見てわかるような工夫があるとよい。そのことが市民の買い物行動の変化につながると思う。
- 【事務局】ごみアプリは、好評をいただいている反面、機種によってはアップデートが出来ない等の不具合や課題もある。ごみだけではなく道路通報システムや子育て情報など、LINE を活用した情報発信を市全体として進めていく方向で現在検討している。
- 【委員】基本計画の基本施策4(5)について。新型コロナウイルスの影響で、集団回収を請け負う事業者の減少や、古着を可燃ごみで出すなどの動きが一部自治体であるようだが、武蔵野市ではどうか。
- 【事務局】現時点では、古着を可燃ごみで出す予定はない。一部の事業者からは撤退の動きもある。
- 【委員】車両の稼働減に伴い、環境にはよくなったと思う。ペットボトルが2週間に1回の収集になると、大家族では溜まってしまう。スーパーで回収してくれるが店頭回収を知らない人もいるのもっと周知するとよい。集団回収はしっかり集めてくれるし、顔見知りにもなりコミュニティ形成の場にもなっているので良さがある。その良さも含めて集団回収の補助金等の見直しを考えてもらいたい。
- 【委員長】集団回収について、多摩地域は補助金が高い傾向。23区は平均6円程度。多摩地域は平均8円程度で、武蔵野市は10円で高い方である。
- 【委員】集団回収の見直し検討は行政内部でのことなのか、市民会議等で検討することか。
- 【事務局】新型コロナウイルスの影響で歳入減や事業の中止などの影響もあり、来年度の予算をどのようにするかなど苦慮している状況である。財政的側面から、集団回収をはじめ既存事業の見直しを考えており、市民会議をもう一度開催し、ご意見を伺いたい。
- 【委員】集団回収団体は減少し続けているのではないか。以前は240団体ほどあったと思う。財政面などのこともあるとは思いますがコミュニケーションを取りながら継続してきている事なので慎重に検討してほしい。
- 【委員長】収集頻度変更等の効果検証結果については、本日の資料に委員の皆様からいただいたご意見を受け止めて作成した「考察」を加え、その事務局のとりまとめに委員長が加わるということによろしいでしょうか。
- 【全員】異議なし

3. その他

(1) ミカレットについて

【事務局】ミカレットみたかについての報告。4月オープンの予定が、新型コロナウイルスの影響で中国からの部品調達が困難になり、一部予算を事故繰越ししストップ。改修工事を8月までと想定していたが5月に完了し、6月1日にオープンした。多くの方からご好評いただいている。

(2) 喫煙トレーラーハウスについて

【事務局】三鷹駅北口の喫煙トレーラーハウスについての報告。新型コロナウイルスの影響で、設置して置いたままの状況であったが、6月11日に東京アラートが解除された。トレーラーハウスをカラオケボックス類似の施設と考えていたため、カラオケも休業要請緩和となったことを受け、7月1日にオープンした。想定利用人数は当初の半分の6名とした。屋内に間隔をあけて足跡マークを設置する、スロープに1m間隔でテープを貼るなどしてソーシャルディスタンスを保つようにした。オープン後は職員が現地確認したが、利用者はマナーよく、密にならないようにして利用していた。新聞でも取り上げられた。今後は利用マナーが守られなかったり、新型コロナウイルスの影響などにより再度閉鎖の可能性もあるが、今のところ無事に利用されている。

(3) 連絡事項

【事務局】議事要録については作成の上、委員の皆様にご確認をお願いします。次回は10月または11月に開催する可能性があるため、その際は改めて日程調整のご連絡をする。

【委員長】次回の日程調整は事務局に一任する。

(4) その他

【委員長】全体を通じて何か意見・質問等はあるか。

【委員】3点についてお聞きしたい。①レジ袋有料化がスタートしたが、大手事業者の実施状況やコンビニなどが7割以上のレジ袋辞退率になっていることが分かってきた。市内の地元商店のレジ袋辞退率や履行状況などが分かれば教えて欲しい。②新型コロナウイルスの影響で飲食店のテイクアウト利用増やスーパーのお惣菜などの容器使用により、市のプラスチック製容器包装が増加していると聞いている。テイクアウト事業を応援しながらプラ製容器包装の削減にも取り組んでいる自治体もある。リユース食器の貸出しやタッパーを持ち込んでテイクアウトをするエコテイクアウトを実施しているところもある。武蔵野市でもテイクアウト事業を応援しているので、そのようなことは出来ないか。③市報に熱中症対策で水分補給の記事が出ているが、そこに使われているイラストがペットボトルであった。市報に限らずテレビなどでも水分補給とペットボトルのイラストがセットになっているため、ペットボトルで水分補給をするようにインプットされていると感じる。コップや水筒などのイラストに変更が出来ないものかと思うが、

熱中症対策とごみ削減の管轄が違うので難しい部分もあると思う。横断的にプラスチック削減をしながら熱中症対策ができればよいと思う。

【事務局】市内スーパーと「レジ袋削減に関する協定」を締結しており、有料化前はレジ袋を辞退することでポイントを付与する店舗もあったが、7月1日からは全店舗が有料化を実施した。平成30年度の記録では有料化を実施している店舗において70～90パーセントの辞退率になっている。7月1日以降のレジ袋の辞退率はまだ出ていない。

【事務局】難しい課題である。テイクアウトに伴いワンウェイプラスチック等のごみ量が増加する状況になる。例えば、京都府亀岡市ではエコバックを持参するとクーポンが付与される制度を導入していると聞いている。市が所有する食器の貸出しや、エコテイクアウトの具体的な話はないが、今後の研究検討課題として捉えている。

4. 閉会